

農業者年金視察研修報告

農業者年金の加入推進活動で、加入実績部門全国第二位の秋田県大潟村の取り組みを視察しました。

7月28日、29日の2日間、秋田県大潟村を中心に農業者年金研修視察に行つてきました。

■湖から新生の大地に

創立50周年を迎える大潟村は、国の直轄事業で湖を埋め立て誕生しました。当時の入植者589名の中には山形県から11名、うち1名は鶴岡出身だそうです。当初の経営規模は、一人当たり10haが割与えられ水稲単作で行われました。その後、畑地5ha分を追加され、田畑複合経営となりました。現在、転作は主に加工用米に取り組んでいますが、生産調整が廃止されれば主食用米に切り替えるそうです。また、6次産業化については、米粉を使った取り組みになるとのことでした。

■農業者年金の取り組み

農業者年金については、年金受給者350名、加入者261名（通常加入153名、政策支援加入108名）、昨年度の新規加入者

は17名でした。

大潟村は、農業者年金の加入率が高いことで有名ですが、その理由は、大規模経営によって一定の所得が確保できているからと考えられます。また、農業者年金未加入者への積極的な声掛けや、JA青年部やカントリエレベーター公社の集会の際には、年金制度のPR活動を熱心に行っているようです。



大潟村農業委員会会長のていねいな説明

■（農）坊沢営農組合の取り組み

平成19年に6集落65戸からなる農事組合法人が設立されました。農業経営は、水稲55ha（加工用米、飼料用米を含む）を中心に、大豆20haの作付とハウスや野



6次産業化の取り組みについて語る副組合長

菜、豆腐加工など多角的経営を行っています。構成員には、専業農家の他様々な職種の経験者があり、多様なアイデアを出し合いながら管理運営を行っているのが特徴です。

また、構成員の後継者にもオペレーター作業を積極的にお願いし、今後の経営継承の下地となるように、若年世代からの集落営農への積極的な参加を促していました。

組合の看板事業である豆腐加工については、農業者が作る豆腐であるからこそ、原材料にこだわり大豆本来のコクと香りを味わえる豆腐に仕上げています。販売

■陽気な母さんの店

この施設は、総勢100名の女性農業者らが農産物直売所の設置運動を展開してきた施設です。

運動から4年目（平成13年4月）に施設リース方式で直売所「陽気な母さんの店」をオープン。直売の他各種体験ができる店として賑わっています。公的資金に頼らず、女性農業者の会員出資と販売手数料により、独立採算で運営しています。

（農業委員 菅原一幸）



賑わいを見せる「陽気な母さんの店」



加入しています 農業者年金



藤島 中荒俣
成澤 安雄さん (58才)
つね子さん(52才)
和昭さん (26才)



藤島地域の中荒俣集落で農業、養豚業を営む成澤さん一家。

水稻を1.8ha、柿50本を手がけているほか、お米を混ぜた配合飼料を食べて育った「高品質庄内豚」を飼育し、出荷しています。

長男の和昭さんは、家業を継ぐため農業系の大学に進学、卒業後2年間の研修を経て、平成25年1月に就農しました。

家族3人年金加入

「農業者は国民年金しかなく、将来に不安がある」と農業者年金にもともと加入していた父・安雄さんの薦めもあり、和昭さんの就

農をきっかけに家族経営協定を締結し、和昭さん、母・つね子さんが2人同時に加入しました。

「3人分の掛金は少し大変だが、将来への備えのための積立のつもり」、「ただ貯金しているより、申告の際保険料分が全額控除になるのが魅力」と話してくれました。

和昭さんは家族経営協定を締結したことから、政策支援による国庫補助も受けています。

家族経営協定では、役割分担や休日についても取り決めしており、和昭さんは釣りをした



ふじしま焼肉フェスティバルにも豚肉を提供しています

り友達と出かけたたり、つね子さんは趣味の手芸を楽しみ、リフレッシュしています。

循環型農業をめざして

今後は、養豚業を拡大していきたいと話す成澤さん。豚から排出される糞を堆肥化させて田に還元し、その堆肥で育てた飼料米を再び豚の飼料とする「循環型農業」に貢献していきたいと語ってくれました。

現在、「高品質庄内豚」をPRするためネーミングを考えているとのこと。広く皆さんに知ってもらえるといいですね。

農業者年金に加入しませんか

- ①農業に従事されている方は誰でも加入できる
 - ②少子・高齢化時代に強い積立方式の年金！
 - ③終身年金で80歳までの保障つき！
 - ④支払った保険料は全額社会保険料控除！
 - ⑤手厚い政策支援、保険料に国庫補助も！
 - ⑥保険料の額は自由（月額2万円～6万7千円）に決められる
- 農業者の方なら広くご加入いただけます

全国農業新聞購読のお願い

農業者の「経営と暮らしに役立つ」ホットな情報を毎週金曜日にお届けします。

購読料 1ヶ月 600円（送料・税込）

お申込み 農業委員会事務局

祝 農業者年金基金理事長賞受賞

鶴岡市農業委員会は、農業者年金の加入推進活動における積極的な取り組みが認められ、独立行政法人農業者年金基金理事長賞を受賞しました。平成25年度新規加入者の目標達成度合い（10人以上の部）で、全国第1位となり、8月8日に山形県農業者年金協会臨時総会の席上で表彰を受けました。



農地に関するQ&A

Q

私は、Aさんから農地を借りる予定でいますが、その農地には抵当権が設定されています。その農地を借り受けた場合、抵当権との優劣はどうなりますか。

A

抵当権が設定されている農地であっても賃借権を設定し耕作することはできますが、競売手続きが開始されると権利の優劣が問題になってきます。抵当権の設定登記前に賃借権を設定した場合は、競売によって所有者が変わっても賃借人の賃借権は何ら影響を受けませんが、抵当権の設定登記後に賃借権を設定した場合は、賃借権者は抵当権者にその賃借権を対抗できないこととなります。あなたのケースは、既に抵当権が設定されている農地に賃借権を設定するものですから、仮に競売手続きが開始され所有者が変わった場合は、あなたは賃借権をもってその所有者に対抗できないことになり賃借権は消滅します。なお、あなたも農業委員会から買受適格証明の交付を受けて競売に参加することは可能です。

農委交流事業 こんにく芋植付け

5月24日、地元企業と山形大学農学部 학생と農業委員でこんにく芋の植付け作業を行いました。この月山高原の畑は、南に月山北に鳥海山がよく見える絶景のビューポイントです。参加者60人で、2トンの種芋を一つ一つ手作業で植えていきました。

秋には収穫した芋で作る羽黒産こんにくを食べるのが今から待ち遠しい。

(農業委員 新館 登)



平成26年度鶴岡市認定農業者会議総会開催

7月2日、東京第一ホテル鶴岡で行われた総会では、平成25年度の事業報告と決算報告、本年度の事業計画及び予算について協議され、代議員全員の賛成により承認されました。

また、本年度は役員の変更が行われ、新会長に藤島支部の佐藤一晴さん(野田目)が選出されました。

総会終了後は情報交換が行われ、各支部間で交流を深めました。



つるおか大産業まつり
大好評! 寄せ豆腐
今年も出店します

◎日時 10月18日・19日
◎場所 鶴岡市小真木原公園

農業委員会では、地元産大豆を使用した寄せ豆腐をふるまいます。その他、安心・安全で美味しい野菜や果物の販売、耕作放棄地の再生過程を紹介したパネルの展示等を行います。お気軽にお立ち寄りください。

あしがき

11月の農業委員改選に伴い、第3期広報編集委員のメンバーで「もっしえのー」の作成に携わるのも今号で最後です。

3年間の実に短いこと。この間に何をやったかを考えると忸怩たる思いがあります。

この期間には、農業委員会の選任制や、廃止論なども出てきましたが、新たな農地中間管理機構の中でもしつかり農業委員会の役割が位置付けられています。

これからも、地域農業のために頑張っていきたいと思います。

(鈴木 裕)

庄内たがわ

農業協同組合推薦



齋藤 源之助 委員

農業委員が
変わりました

退任委員 菅原 勝 委員
新任委員 齋藤 源之助 委員